

## 9月の教室・行事予定

日	曜	教室・行事等	～毎月10日は人権を考える日～ 『「蟻と人間」の戦いから考える』
1	月	健康・太極拳教室 (14:00～15:30)	太平洋戦争中、Mさんは海軍航空隊の基地がある南太平洋のラバウルに送り出されました。
3	水	フォークダンス (10:00～12:00) 生け花 (13:30～15:30)	空襲のたびに地べたに身体を伏せて、じっと敵の攻撃が終わるのを待つ毎日が続きます。ある日、腹ばいになった目の前で蟻の戦いが始まりました。
5	金	健康体操 (13:30～15:30) 南子ども会 (19:30～21:00)	日本の蟻より大きい蟻が、横一列になって互いに向き合い、一対一で相手と格闘をはじめたそうです。一匹に数匹が襲ったりは決してしません。戦いが終わると、生き残った蟻が、仲間の死骸を大事そうに抱えて運び始めました。一時間くらいすると、蟻の戦場には死骸一つ残されていないそうです。
6	土	人権啓発指導者育成講座 13:30～	Mさんは、ラバウルで終戦を迎えました。多くの仲間が、赤痢やマラリアで死んでいきました。そのたびに茶毘に附し葬りました。けれども、戦場で死んだ多くの仲間は、茶毘に附されることなく、原野に置き去りにされました。
8	月	健康・太極拳教室 (14:00～15:30)	Mさんは時折、戦場での大量殺りくや野ざらしの死体と死骸一つ残されていない「蟻の戦い」を思い出そうです。蟻以上に人間がみじめに思えるとともに、戦争の悲惨さを、蟻に責められているように感じるそうです。
9	火	茶道 (13:30～15:30)	今、この地球上に住む人間同士が、互いに相手を罵り、自分たちが「正義」であると思い込んで戦いを繰り返しています。わが子を殺し、親を殺し、いじめによって友人を死に追いやり、時には誰でもよかったと無差別に人を殺しています。
10	水	健康相談 (13:30～15:30)	人間というのは、どこまで野蛮な存在なのでしょうか…。蟻や他の動物たちの、生きるための戦いと、人間が繰り返している戦いは、同じものとは思われないのですが…。
12	金	健康体操 (13:30～15:30) 南子ども会 (19:30～21:00)	西条市教育委員会・西条市人権教育協議会
13	土	西条市人権・同和教育講座 10:00～ 中央公詩吟 (19:00～21:00)	
15	月	敬老の日 ●	
17	水	フォークダンス (10:00～12:00) 生け花 (13:30～15:30)	
19	金	健康体操 (13:30～15:30) 南子ども会 (19:30～21:00)	
22	月	健康・太極拳教室 (14:00～15:30)	
23	火	秋分の日 ●	
26	金	健康体操 (13:30～15:30) 南子ども会 (19:30～21:00)	
27	土	詩吟 (19:00～21:00)	
29	月	健康・太極拳教室 (14:00～14:30) 健康教室 14:30～	
30	火	茶道 (13:30～15:30)	

# 大町会館 だより 9月号

2014年9月 第172号  
発行 西条市大町会館  
西条市福武甲1644-1  
TEL・FAX 55-5393  
eメール  
omachikaikan@saijo-city.jp

## 子ども会の

## 夏休み

8月2日(土)、雨の中、大町会館子ども会はバス満席(24人)で高松に向かって出発しました。

研修先のひとつ、香川県立ミュージアムでは、歴史博士にチャレンジ。ミュージアムの小林由希子先生の説明を受けながら、全員がみごと認定証をいただくことができました。大昔から昭和にいたる香川県の歴史や文化を学ぶことで、現在の便利で豊かな生活に感謝しました。

昼食はさぬき名物のおうどんです。皆それぞれ食べたいものを注文し、大満足!

もうひとつの目的地、新屋島水族館には世界のめずらしい魚類がたくさん集められており、形の変ったものや大きい体に歓声があがりました。また、アシカやイルカのショーを何度も見ながら楽しいひとときを過ごしました。

8月5日(火)、大町会館で、子ども会の学習会を行いました。

大町小学校の先生や校長先生、南中学校の先生が来られて、わかりにくいところをていねいに教えてくださいました。

暑さにめげず、みんな真剣に取り組んでいました。素晴らしい子どもたちです。

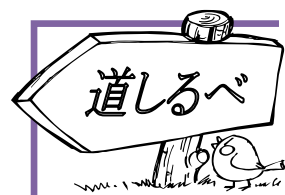


## 第172回 会館ミニ展示会

『 古典書道 二人展 』

- ◇日程 平成26年9月11日(木)～25日(木)
- ◇場所 大町会館 玄関ホール
- ◇提供者 十亀みゆきさん&日下知子さん





法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催

第33回 全国中学生人権作文コンテスト 法務大臣政務官賞 受賞作

## 「思い」を受け止め 「心」をつなぐ

兵庫県 西宮市立大社中学校 三年 投げいし めぐむ 投石 崩

東北の海は藍色に澄んでいた。生活の全てを飲み込んでしまった津波がこんなきれいな海からやってきたことなど信じられないくらい穏やかだった。でも、海から陸に目を移すと、そこには本当に何もなかった。所々に片付けられ、集められた瓦礫の山があるだけ。何もない土地が広がり雑草だけが伸びていた。町全体が荒地だった。テレビで見たり、聞いたりしていたはずなのに、丘から見る風景は、言葉にならないほどの衝撃だった。

この夏、私は東北に行った。復興に二十年以上必要とされる被災地の仮設住宅を訪問し、被災者の方と交流するボランティアグループの活動に一人で参加するためだ。私たちは報道もなく支援が届きにくい三陸海岸沿いに点在する小さい仮設住宅地を中心に回った。

東日本大震災のことはそれなりに知っているつもりだった。地震だけでなくその後の津波や放射能の被害の大きさはテレビや新聞でもたびたび報道されているし、私自信も救援募金をした。瓦礫の片付けや作業をするために多くのボランティアが東北に行っていることも知っていた。でも、今回の訪問の目的は「心の支援」だ。行く前に訪問時に渡すメッセージカードと手作りの品を準備した。私はフェルトでハートを作った。中に綿を入れたので針山にも使える。決してきれいでできたわけではないが、夏休みに入ってから作った六十五個。帰省した時には田舎の祖母も手伝ってくれた。たった一人で参加する勇気をほめてくれた後「おばあちゃんの分も行ってきてな。」この一言がうれしかった。「その気持ちをちゃんと東北に届けるよ。」と思った。

困ったのはメッセージだ。どう書いたらいいのか。何とさえいいのかわからない。すごく悩んだ。本当に心の支援なんて私にできるだろうか。ちょっと不安なまま被災地に行った。

鉄骨だけ残った防災センター、奇跡の一本松、そして内陸まで打ち上げられた巨大漁船。すさまじかった津波の破壊力にあ然とした。

たくさんの遺留品は無言のまま私たちに語りかける。明日がくるのがあたり前だったあの日。もう会えない人がいるなんて誰も思っていなかった。朝出かける時に言えなかった「ありがとう」や「ごめんなさい」たくさんの思いが残っているような気がした。

阪神・淡路大震災では、家は建っていた場所で壊れた。でも、津波被害のあった地域では家が建っていた場所には何も残っていない。予想もできない所まで流されてしまったそうだ。だから命は助かった人も思い出の品すら返ってこない場合も多い。娘の幼い頃の写真が一枚もなくなってしまったというおばあさんの話を私は黙って聞くことしかできなかった。

仮設住宅を二十ヶ所以上訪問した。国道沿いの山際や空き地にぽつんと五軒、十軒と建っている仮設住宅は生活するのが本当に大変だ。近くには買い物する店も病院もない。車がなければどうしようもない。生活はあたり前に大変だと思うが、訪問して話したお年寄りたちはたくましかった。それでも「田畑が全部流されて農業がもうできない。本当に何もないから暇で暇で仕方がない。」と帰れない家や田畑を思って寂しそだった。

「親友を津波で亡くした。」「あんな津波が来たら、年寄りは逃げられない。」「お金がある人は仮設を出ていく。軒数が減ったら、どうなるか心配だ。」など、あの日の地震や津波のこと、仮設住宅での暮らしやこれからの不安などについて色々語って下さる方に出会った。ラジオ体操と一緒にした。小さい子と遊んだ。行く先々でジュースやお菓子で歓迎されたり、帰りには手作りの品を手渡されることもあった。私が持っていったハートも喜んでもらえた。

今思えば、心の支援ができるかなとか思っていた自分がちょっと恥ずかしい。何て言えばいいのかなとか、どんな言葉をかけたらいいかとか、そんなことを考えることがそもそもおかしい。「こんにちは。西宮から来ました。」たったその一言から交流が始まることになり、中学生の私たちがだんだん積極的に動けるようになった。何も言えなくても、聞いてうなずくだけでも構わない。何か心が触れる。限られた時間であっても別れる時にお互いにちょっと温かい気持ちになる。結局それでいいのかなって今なら素直に思える。

東北に行ってよかった。実際に自分の目で見たこと、知ったこと、聞いたこと、そして考えたこと。ありのままを誰かに伝えたい。ボランティアとは何か。何をすればいいのか。そして自分には何ができるのか。まだはっきりと言えない。でも、自然体で人と出会うこと。続けて関わっていくこと。それで見えてくるものがきっとある。私の力なんて本当に小さいけれど、たくさんの人の思いを受け止めることが人と「つながる」第一歩になると思う。東北の海や空ははるか西宮まで続いている。また来年もあの海を見に行きたい。

(アイユ 6月号より)

## 講座・研修会等のご案内

### 第4回

### 人権啓発指導者育成講座

《日 時》 9月6日(土)  
13:30~15:30

《場 所》 大町公民館  
2階大ホール

《講 師》 鹵朶山 加代 先生  
(阿南市人権教育協議会副会長)

《演 題》 部落解放運動とともに  
～差別の実態から学ぶこと～

## 健康教室

《日 時》 9月29日(月)  
14:30~15:30

《場 所》 大町会館  
2階大会議室

《講 師》 済生会西条病院  
管理栄養士

《内 容》 食生活講座  
「あなたのコレステロール 上げる？  
下げる？」

## 大町会館先進地訪問研修

《日 時》 10月4日(土) 8:00~17:00  
《訪 問 先》 赤岡市民館 (高知県香南市赤岡町)  
《内 容》 赤岡町識字運動について&フィールドワーク  
《交通機関》 市公用バス  
《定 員》 24名 (定員になり次第、締め切らせて頂きます)  
《参 加 費》 3,000円 (昼食代、高速料金等含む)



いずれも、参加ご希望の方は、大町会館(☎55-5393)までご連絡下さい。